

勝負

2024. 3. 21

教員1年目は、お話にならなかった。2年目からは、この1年が勝負という気持ちで、教師という仕事、身分、立場と向き合ってきた。2年目で、少しは手ごたえを感じる事ができた。そして、3年目も自分なりに努力を重ねていった。あの頃は、がんばってもだめだったら、やめようかという気持ちが、どこかにあった。

2校目で、中学校に移った。今まで少しは積み上げてきたものが、どこかに行ってしまった。リセットされてしまった。また、一からのスタートとなった。このときも、だめだったらやめようという気持ちがあった。2校目には、6年もの間、お世話になった。その間、やめようかという思いがずっとあった。結果的に、教員2年目から9年目まで、ずっと1年、1年、自分の中で勝負してきた。結局は、これがよかった。1年勝負だと思えば、やれること、やるべきことを先送りにはしない。そのとき、そのときでベストを尽くすようになる。

3校目の1年目は、とてもとても1年勝負という気持ちにはなれなかった。自分が向いている、向いていないとか、力量が足りないとかいう問題ではなく、現実から逃れたいなり、やめようかという気持ちが生まれてきた。それでも、何とか踏ん張り、2年目からは攻勢に出た。もはや、やめるという選択肢はなくなった。

すると、降って湧いたように海外に行くこととなった。やめるとかやめないとか、そんなことを考えるレベルではなくなった。3年に及ぶ教員としての研修である。人生における研修期間である。やめようとはしていないが、3年という期限付きのため、1年1年が、それこそ勝負だった。やり残しなど、あり得ない。

その後、日本に戻り、日本の学校に復帰すると、やめるという気持ちは霧散していた。教員として、ひたすら前に進むだけだった。以前よりも、1年勝負という意識は薄らいでいた。だが、それでも何かと勝負しているような思いはあった。それは、自分自身である。怠けない自分、努力しない自分、妥協してしまう自分、逃げてしまう自分との闘いだった。自分との勝負は、厳しいものである。よほどの強い気持ちがないと、いとも簡単に負ける。

思えば、人生とは、常に勝負の舞台なのかもしれない。相手がいる勝負もある。しかし、その多くは、自分自身との勝負である。自分に打ち克つのは、容易なことではない。人は、誰でも弱さをもっている。楽をする自分、逃げる自分、後ろを向く自分、誰にでもあるだろう。だが、人生の勝負どころでは、決して逃げてはいけない。立ち向かわなければならない。そうしないと、きっと自分が一番後悔する。

これからも、自分との勝負は続く。若い頃の勝負とは、また一味違った勝負になるだろう。負けたくはない。勝ち続けたい。